

熊本地域医療



当院HPは
こちらから



センターだより

院長 杉田裕樹

令和7年(2025年)12月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号 <https://krmc.city.kumamoto.med.or.jp>

2025 **12** 通算247号
月号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。 紹介してよかった。 働いてよかった。
そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。



TOPICS

アレルギー診療センターの アピールポイントと最新トピック

～友達の輪～ Relay トーク 第38回……4

熊本地域医療センター

TEL. 096-363-3311

FAX. 096-362-0222

検査予約・連携室 . 096-366-1323

外来予約 . 090-9472-1177

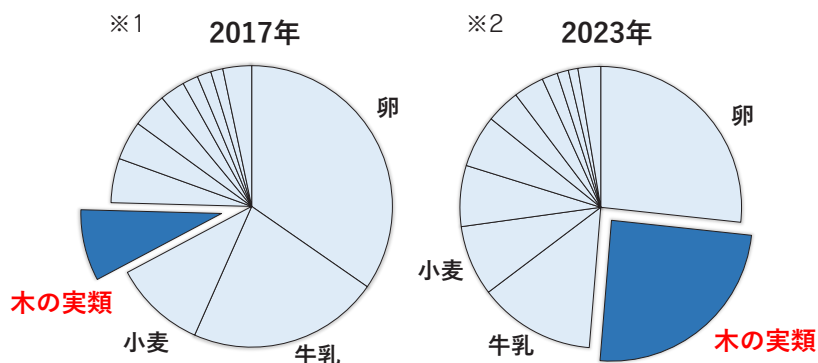
医師専用電話相談 . 090-2964-0600

アレルギー診療センターのアピールポイント

アレルギー診療センター・センター長の西奈津子です。私が当院アレルギー診療に携わって約10年、アレルギー診療の数年間でアレルギー界隈は感作抗原や治療方法に関して劇的な変化が見られております。今回は、アレルギー診

●急増する木の実類アレルギー

近年、日本の食物アレルギー疫学調査において、原因食物の傾向に大きな変化が見られます。これまでの主要な原因食物であった鶏卵、牛乳、小麦に加えて、クルミをはじめとする**木の実類（ナッツ類）**が急増し、上位に位置するようになりました。



主な原因品目

木の実類の中でも、特にクルミの症例数が著しく増加しており、2023年調査では卵に次いで2位となりました。2026年にも全国モニタリング調査が行われますが、この時には卵を抜いて1位になるのではと予測されています。次いでカシューナッツなども多く報告されています。この増加の原因には、健康志向の高まりなどによる木の実類の消費量増加も背景にあると考えられていますが、詳しいことはまだ分かっておりません。この状況を受け、消費者庁はクルミをアレルギー表示の「特定原材料」（表示義務）に追加し、注意喚起を強化しています。

●食物アレルギー診療の現状

1. 食物アレルギー負荷試験の目的

食物アレルギーの正確な診断と適切な管理のために、食物アレルギー負荷試験が重要な役割を果たします。以前は診断を確定することが主な目的でしたが、近年では以下の3点が主な目的となっております。

診断の確定

アレルギー反応の有無を疑義食物摂取によって確認し、正確な原因食物を特定すること。

摂取可能量の決定

完全に除去する必要があるか、あるいは「これだけの量までは食べられる」という安全な摂取可能量を判断し、不必要な食事制限を解除または緩和すること。これにより、子どもの成長に必要な栄養摂取を確保し、生活の質（QOL）の向上を目指します。

耐性獲得の評価

食物アレルギーと診断がついた場合でも、特に小児の場合は成長とともに耐性獲得する可能性が高く、多くの子ども達が小学校入学までに食べられるようになります。耐性が獲得される正確なメカニズムは複雑ですが、消化管の成熟や免疫系の変化が関与していると考えられています。

食物アレルギーの治療の基本は「必要最低限の除去」

完全除去せずにアレルギーが出ない範囲で摂取し続けることで、耐性獲得を促す可能性が示されています。ただ、自己判断での解除や摂取はアナフィラキシーなどの重篤な症状を引き起こす危険性があるため、医師と相談しながら、定期的な検査と指導を受けることが重要です。

トと最新トピック

センターを開設されてから5年以上が経過いたしました。療における最新動向についてお伝えしたいと思います。



小児アレルギー科部長
アレルギー診療センター長

西 奈津子

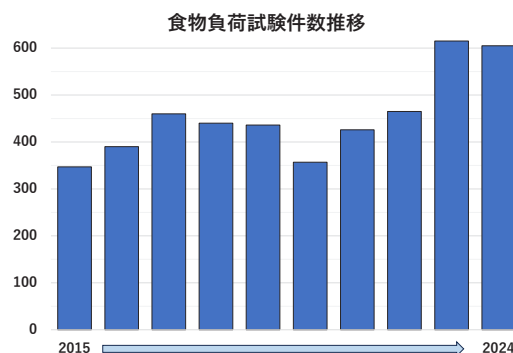
日本小児科学会 専門医
日本アレルギー学会 専門医

2. 多職種連携

アレルギー診療においては、正しい診断・治療方針の決定のみならず、その後の家庭や学校・職場での対応を身に付けていただけることを目標としており、そのため医師・看護師・薬剤師・栄養士・検査技師がチームで取り組んでおります。食物アレルギーに関しては栄養士が代替食の説明や災害時の備えについてアドバイス、薬剤師はアドレナリン自己注射薬の使用状況の確認を行っております。患者さんやご家族の知識向上やモチベーションの維持に貢献できればと頑張っております。

3. 当院の食物負荷試験状況

当院の食物負荷試験状況についてお伝えいたしますと、新型コロナ時期にいったん減少しましたが、負荷試験数は年々増加しており2023年以降は年間500例を超えました。本年で通算5000例を超えると推測しております。先生方から多くのご紹介をいただき、スタッフ一同貴重な経験を積むことができております。深謝申し上げます。

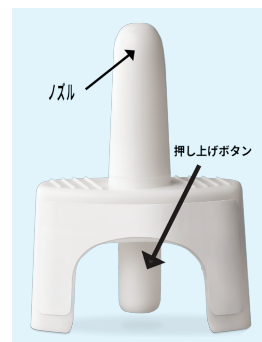
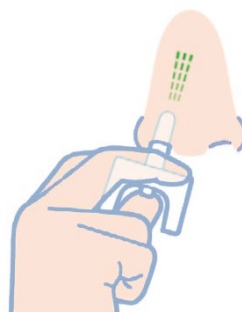


●アトピー性皮膚炎治療の進歩

アトピー性皮膚炎の治療においても、目覚ましい進歩が見られます。重症のアトピー性皮膚炎に対しては、従来のステロイド外用薬などに加え、炎症を引き起こす特定の分子を標的とした生物学的製剤やJAK阻害薬などの新しい治療薬が開発され、高い効果を示しており、難治例に対する大きな選択肢となっています。当院は、それら新薬の使用を認められた承認施設です。主に皮膚科専門医が担当しますが、お気軽にご相談ください。

●アナフィラキシー治療薬の新たな選択肢

最も重篤な全身性アレルギー反応であるアナフィラキシーの治療薬として、緊急時に使用するアドレナリン製剤が不可欠です。現時点では注射薬（エピペン®など）が主流ですが、近くアドレナリン経鼻噴霧薬が国内で発売される見込みです。これは注射に抵抗がある人や保護者にとって、より簡便で使いやすい新たな選択肢となることが期待されています。



これからも、熊本の皆様の健やかな生活のために尽力して参ります。どうぞよろしくお願いたします。

参考文献

- ※1 食物アレルギー診療ガイドライン2021
- ※2 一般社団法人 日本アレルギー学会 Vol.74(3)

熊本地域医療センターの思い出

えず総合診療所 木村 浩

大和クリニックの山本浩一朗先生から紹介いただいた、えず総合診療所（東区）の木村です。山本先生とは天草地域医療センター、西日本病院で一緒に働いておりました。

遠い昔、平成が始まったころ、私は脳神経外科研修医2年目の医師として1年間、熊本地域医療センターで勤務しました。当時の医療センターは設立間もないころで若いスタッフが多かったです。どの部署もNsはほぼ20歳代、Drも部長が大体40歳代、脳外科部長に至っては30歳代後半でした。若い病院、若いスタッフ、まだ世の中はバブルの余韻が残っていた当時、働き方改革もなかった頃ですから、仕事も遊びもイケイケどんどんの時代でした。若い職員同士でよく飲み会があったことを覚えています。

当時の脳外科は、部長と研修医の2人体制で、年間150例ほどの手術があったと思います。熊本地域医療センターから脳外科が撤退してずいぶんたちましたから、当時を知るスタッフはもういらっしやらないかもしれません。

その時代、昼間の手術室は、消化器外科の予定手術でほぼ埋まっておりました。消化器外科の先生たちは1日を手術室で過ごしておられましたから、病棟ではめったに見かけませんでした。

ほとんどの手術が緊急手術だった脳外科は、夕方、消化器外科の手術が終わってからの手術開始でした。夕日が沈むのを眺めながら手術室に入室したものです。血管内手術がまだ普及しておらず、SAHは全例、開頭クリッピング術でした。3DCTAもMRAもない時代、SAH来たら即、脳血管撮影、それもアナログフィルムの時代ですから、動脈瘤見つけるのに2時間くらいかかっていました。夜間の緊急脳血管撮影を研修医一人でこなし、時に、脳血管撮影

中に脳動脈瘤再破裂で呼吸停止、慌てて気管内挿管、などもありました。今思うとよくやってたなと思います。

脳動脈瘤が見つかったら、すぐ手術でした。昼間の手術室は予定で埋まっているので、翌朝まで待機することはありませんでした。家族への説明、同意書作成、血管撮影のチーム 手術室のチームの呼び出しなども含めると、患者搬入後、手術が終わるまでに12時間くらいかかることもありました。

熊本地域医療センターでの研修1年間で、いろいろな経験もできましたし、度胸も付きました。いろいろな意味で脳外科医、医師、としての基礎ができたような気がしております。

地域医療センターでの研修が終わった次の年の4月、済生会熊本病院脳神経外科勤務が始まったころ、なぜか熊本地域医療センターから夜間の呼び出しがあり、緊急手術のアシストに入ることがあります。それ以来、熊本地域医療センターとは縁がなくなっておりました。

数年前、思いもよらず開業医となり、再び熊本地域医療センターとのかかわりが増えてまいりました。今後ともよろしく願いいたします。

今回は蓮台寺クリニック 泌尿器科の木谷公亮先生をお願いいたしました。木谷先生は私の中学、高校、大学の同期で、えず総合診療所で週2回、泌尿器科外来を担当していただいています。



病院職員と私
先輩の結婚式にて

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2026年 1月26日(月) 19:00～20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM 会場参加：新館6階ホール

申込方法

kumamotochiiki@gmail.com (※1) まで
メールにて「所属医療機関名」および「氏名」
を記載し、お送りください。(後日、詳細な
参加方法についてご案内いたします。)

(※1)メール作成用QRコード



①症例報告

放射線科 松川 哲也 医師

『造影MRI検査でEOBではなく通常のガドリニウム造影剤を選択すべき肝疾患について』

②特別講演

呼吸器内科 廣岡 さゆり 医師

『肺吸虫症について』

CC46：咳・痰